柊（ヒイラギ）とメザシ

節分と聞いて、一番に頭に思い浮かぶのは、豆まき・・ではなく、恵方巻きでもない、柊とメザシである。

節分には、当たり前のようにスーパーでメザシを買い、柊の葉と一緒に割り箸に挟んで、玄関先や各出入り口、納屋、車庫にも飾りつける。深い理由はない、亡くなった両親が飾り付けていたから・・・。

少し調べてみると、奈良県を中心とした西日本、福島や関東地方の一部では今もこの柊イワシが残っているとか。えぇ！！四国のこと、忘れてまっせ！！ましてや香川にも残っているとはどこにも書いて無い！本州人にとって、四国は単なる島だから調べてもいないか！（ヒガミです）

そう言えば最近、この柊メザシを飾り付けしている家を、トンと見なくなった・・と言うか、私にとっては、鳥が空を飛ぶように当たり前のことで全く記憶に残ってない。

節分にイワシの風習は、平安時代まで遡るそうで、季節の変わり目は体調を崩しやすい、いわゆる邪気が入り込みやすい、節分の鬼、いわゆる邪気もそこから来ているとか。

鬼の好物であるイワシでおびき寄せ、先の尖った柊の葉っぱで鬼の目を突き刺す。なんとも卑怯な邪気払いである。

また、先の尖った物、臭いのきついものは邪気を寄せ付けないとして、ニンニクを飾り付ける地域もあるとか。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期、匂いのきついもの＝滋養のあるものを、イワシ（カルシウム・EPA・ DHAが豊富）やニンニク食して邪気に打ち勝ち無病息災を祈る。

ちなみに柊イワシの風習は、鰯の頭だけを飾るとあり（当然頭以外は食べるんでしょうね！）ますが、我が家では、贅沢に一匹丸ごと飾り付けます。